

ビネウロガ
夫人の

フレールベル追懷録

S K 生 譯

一、フレールベルとの初めての面會

一八四九年の五月の終に、私はチューリンゲンに於けるリーベンスタインの温泉に到着しました、而して前年と同じ家に宿を定めました。きまりの挨拶が交り換されて後に宿の主婦おかみさんは何か珍しいことが此の土地に起りましたかといふ私の間に對して、二三週間前から或人が湧泉の傍の小さい耕地に居を定めて村の子供と一緒にたつて舞踏をしたり遊戯をしたりしてゐるので「馬鹿爺さん」と渾名されてゐるといふことを話してくれました。

數日の後、散歩の途上で私はこの所謂「馬鹿爺さん」に出會ひました。長い灰色の頭髮を持つた瘦驅長身の人が三歳から八歳位までの村の子供の一團を率ゐて居りました、子供は大抵裸足で衣服

も著てゐるといふのは名ばかりでありました、彼等は二人宛丘の上へ登つて行きました、その人は丘の上で遊戯の指圖をして、その團隊に屬する唱歌を子供と共に練習しました。

その人が、以て此の事に當つてゐる愛に充ちた忍耐と、何事をも棄て、顧みない様子と、自分の指揮の下に子供に種々の遊戯を行はせてゐる間に於ける始終の態度は、著しく人の心を動かすものがありました、それで私の連れの人も私も眼に涙を浮べました、而して私は連れの人に言ひました。

「この人はこの邊の人々に馬鹿爺さんと呼ばれてゐるのです、この人は屹度同時代の人々からは馬鹿にされたり石を投げ付けられたりして後の世の人々からは紀念碑を樹てられる人々の一人なので

せう」

遊戯が終つたので、私はその人に近附いて言ひました。

「お見受け申すところ、貴君は人民の教育をなさる、お方のやうですが」

「さうです、さうなのです」とその人は親しげな優しい眼を私の方へ向けて言ひました。

「それは當節最も必要なことでございます」と私は言ひました、「現代の人々が面目を改めるのであれば私達が應がて實行せらるゝであらうと夢想してゐるすべての美しい理想は實現されることはありませんまい」

「眞個にさうです」と彼は答へました、「けれども面目を改めた人々といふのは私達が人々を教育しなければ出て來るのではありません、それですから私達は子供と一緒に忙しく働いてゐるのです」

「けれども眞の教育は如何にして得らるべきでせ

うか、私達が教育と呼んでゐる所のものはどうも大抵愚にも附かぬ誤れるものゝやうに私には思はれる節が屢々あるのです、今の教育は可憐なる人の天性を常套的な偏見と不自然な法則の緊衣の中に押込めて獨創力が全然窒息してしまふ位矢鱈に多くを注ぎ込むのであります」

「それで私はこの事を防ぎ、自由な發達を遂げさせることが出來るかと思ふことを見出しました」とその人は言ひました、尙まだこの名前を知らぬ人は

「どうです、私と一緒に私の學校へ行つしやいませんか、もつと詳しくお話してお互ひによく理解の出來るやうにしやうではありませんか」と續けて言ひました。

私は同意しました、而してその人は牧場を横切つてとある田舎家へ私を案内しました、それは大きな底の中程に建つてゐて、まはりには外屋が建て並べられてありました、その人は此所を幼稚園

の保姆にならうとする若い娘達を教育する所に充てゝ居りました。

中程に大きなテーブルを据ゑた大きな室でその人は私を彼の學生に紹介してくれました、而して各自に割り當てられてゐる家政の種々異つた任務を私に話してくれました。この學生の中には彼の姪のヘンリータ、ブレイマンが居りました。

その人はそれから玩具の入れてある大きな押入れを開いて、その玩具の教育的の目的を説明してくれました、けれども私はその時は未だ彼の方法に効果があらうとは信じませんでした。私はたゞ「人は創造力を有する生物である」といふ一句をしか記憶に止めませんでした。

それは扱て置き、彼の人となりと彼の舉動ぶつどうとは私に深い印象を與へました、私は獨創的な誤ることなき資性を有する眞の人と昵近になつたといふことを知りました。

彼の生徒の一人が彼をミスター、フレーベルと

呼んだ時、私は遊戯によつて兒童を教育しやうと試みてゐる同名の人に就て聞いたことがあるのを思ひ出しました。而して私はそれは甚だ間違つた意見であると思つてゐました、何故ならば私はただ何等の眞面目な目的を有することなき空虚な遊戯のことしか考へてゐませんでしたから。

フレーベルはリーベンスタインへ歸る路のいくらかを私と同道してくれましたので（リーベンスタインはフレーベルの住所から約一時間路にあります）私達は一八四八年の運動によつて喚起された大なる期待に對する失望に就て話しました、この運動に於て兩黨派の孰れもが正當ではありませんでしたし又望んでゐた改良を贏す状態に於てもありませんでした。

「闘争ストライクを経なくては何物も生じません」とフレーベルは言ひました、「反對する力が闘争を興奮させます、而して反對する力も漸々にその平衡を見出します、闘争はそれ自身では何物をも創造しませ

ん、それはたゞ空氣を清淨にします、私達が若し人格の花を咲かすべき木を持つてゐると思つたならば發芽し成長するために新しい種子が蒔かれねばなりません、けれども私達は今日の破壊的要素がよく爲す如くにすべての生育のよつて出で來るべき根を切り去つてしまはないやうに注意することが必要であります。

私達は過去若しくは未來から現在を引き離すことは出來ません、過去、現在、未來は時の三位一體であります、未來は生活の更新を要求します、而してそれは現在に於て始められねばなりません、「子供」の中に未來の穀種は潜んで居ります」フレーベルは斯くの如く當時の運動に關して自分の意見を現しました、彼は常に過去の事實（傳習の事實）は尊敬さるべきであるといふこと及び新しき創造はたゞ古きものゝ中よりのみ生ずるといふことを主張しました。

「次いで來るものは常に前に行くものゝ上に條件

づけられます」と彼はよく繰返しました、「私はその事を私の教育課程によつて子供に明かにしてやります（彼の玩具の第二の恩物はこの事を具象物に指示して居ります）、しかしフレーベルは急進黨にも與せず又すべての進歩を防遏する反動黨にも與せず明晰な理解力を以て當時の運動の上に彼の眼を注いで居りました、彼は革命黨の領袖によつて自黨に屬するものと思はれてゐました、而して彼はこの幼稚園を以て非難されました。

彼は幾度も幾度も繰返して言ひました

「國民の運命は權力の所有者や概ね自分自身をも理解してゐない革新者よりも、寧ろ婦人——母——の手に握られてゐます、私達は人類の教育者たる婦人を教化しなければなりません、さもなくば第二の國民はその使命を完遂することが出來ません」これが大抵いつも彼の説の總和であつたのであります。

フレーベルの師範教授

フレーベルと懇意になつたこの最初の日に於て既に私が彼の導いてゐる學生の授業に出来るだけ多く出席するといふ約束がなされました。

彼が彼の意見を發表し説明する際に現した熱情は彼の意見に特殊な極印を與へました、而して彼が彼の意見の正當なることを明示する際に明した深き確信は時に溢るばかりに裕かだ莊嚴でありました。彼は天才が彼に起つて來た時は全然別人となつてしまひます、その時彼の言葉の流れは豪雨の如く注ぎ出されます、彼の天才は屢々全く思ひもかけずに又一寸した機會に起つて來るのであります、例へば散歩をしてゐる時なぞでも小石や植物の靜觀が屢々深遠な宇宙に關する思念に變じてゆくのであります、何は免ままれ彼のすべての議論の基礎は常に彼の進展論でありました——人類に應用された宇宙的進展の法則でありました。

彼の天才を確め、彼を刺戟する強き確信の力を認めやうとして教室に於けるフレーベルを見たい

と望む人もありました、真理の確乎たる確信のみが議論の具に供することの出來る深き熱誠を以て彼の熱誠を聴講者に傳ふべき主題に對する愛を以て並びに倦怠することなき態度を以て教鞭を執る彼を若き處女達の間に見た人は誰も皆等しく深い印銘を與へられない譯にはゆきませんでした。

彼の學生の大部分は彼の言語を十分に了解することが出來なかつたかも知れませんが、何故ならば彼の教へてゐたことは時に學生等の慣らされた思想の領域を超越して居りましたし又彼の一種趣を異にした話調が學生等に彼の言ふことを理解することを困難ならしめたからであります。けれども彼の教授せんとすることの精神は學生の心に浸徹しました。而して彼が授業をついでゆき内うちにその部分的の理解が拓けてゆきました。

これは心から理解することの出來たもののみがさうだつたのであります、而して斯る人々には又彼の教授の主題に對する愛が眞個に目覺めて來ま

した、而かも尙彼の學生の内には後年活動する時に當つて幼稚園の實際的事務の他何事をもなし得ず又屢々眞の知識に非ざる臆説の他何物をも弘布し得なかつた者のあることは否まれません。

けれども論理的結合に於ける實際的の仕事と遊戯、智的意義を有する實際的の仕事と遊戯の習得は是等の若き處女の誰にでも彼の説の局限された了解を與へました、彼の説の全體は天賦の裕かな最も發達した者のみがあるの真相を解することが出来るのであります。

彼の屢々現す不明瞭な文體の理解は随伴する例證によつて容易にせられます、彼が人性の溢るゝばかりの愛を以て、無理無體に亂暴に取扱はれ、すべての危害に曝さるゝ子供のたよりなさを語り且又神が彼等を婦人に托して眞の人たると同時に神の子たるべく形造らせ、彼等が生れ出て來た所のものに自覺的に立戻らせやうとするといふことを語る時には彼の學生の眼には涙が光りました。

而してそれから彼は人類の教育者としての婦人の上に課せられた責任を力説しました——責任は現代に於ては一層重くされました、その問題は男子のみでは到底解き能はぬ位に大きく且つ六ヶ敷くあります。

「生硬なものは成熟せるものとならなければなりません、生硬なものはこれまで十分の意味に於て人としての尊嚴を認められなかつた所の婦人並びに子供であります」と斯う彼は新しい婦人問題に就て話す度に言ふのが常でありました。

彼が恩物によつて彼の法則の應用を語る時並びに又彼が後年その精神的事實を了解せしむべき具象物、言はゞシンボルによつて與へらるゝ所の極く幼い子供に映する外的世界の第一印象を取扱ふ時は彼の眞意を解するに最も困難であります。

彼の學生の最も進歩した者でも彼の教授のこの眞に至難な不分明な部分を完全に再現することは出来ませんでした、私はこれを彼の與ふる授業の

内容を書き止めて置く學生の筆記帳を見て感じたのであります、それですから私はこの時から斯ることを教授するに當つては彼が施して來たと全く異つた方法を取ることにしました。

けれども彼が是等の筆記帳に於て彼が教へてゐる主題の深い洞察力と悟性とが現れてゐる數行を此處彼處に見出して私に指示する時には彼の眼は喜びを以て輝きました。尙又彼が個人的に私に説明してくれたことを私が更に立ち入つて發展させ説明する時及び私が彼から受けたものに就て異説を樹てる時などは彼の喜悅は甚しくありました。

彼が彼の玩具の意義を説明してゐる時私がそれを前から知つてゐたのなぞすると彼はよく「どうしてあなたはそれを知つてゐますか」と私に尋ねるのであります、「私はまだそれに就てお話ししませんでした、私は私の幼時の智的要求の記憶からそれを推理することが出来るのです」と私が言ひますと彼は大層喜びました、而して言ひました

「成程、それであなたにはその事が分るのでですね」この言葉を彼は、私とその頃彼の教授を次ぎに示すやうな金言的な記述によつて極く短く書き記して置いたものを彼に見せたときにも繰り返しました。

「極く初期の兒童生活の開展に於ける第一の系統は必要によつて繋がれたる無意識の自然なり」
「この人生の初期に於ける少年時代はたゞ感覺的世界の外的現象の中に於て、諸型の機關を豫象する所の前進的なる自然の生硬なる諸型よりその原物アンチタイプ（模型）に對する本體）を見出し得るなり。基礎となるべきものはたゞ基礎となるべきものの中に於てのみそれ自身を見出す」

「是等の形象は一面精神的なるもの、シンボルたるすべての自然に係りある心靈の幼芽を目覺めしむ、兒童の靜平なる思考力なき心はシンボル若しくは高き心的形象によつてのみ覺醒を促され教へ導かるゝなり、自然の諸現象は是等のシ

ンボルを供すれども兒童の心の靜平にして定かならざる單純性に相當すべき初等の形に於てにはあらず、是等のシンボルは先づ思考力を有する心によつて多種多様な事物の中より選び出されざるべからず、是等のシンボルは至小なるものにも至大なるものにも花にも天體にも己が形を與ふなる宇宙の法則を反映せざるべからず」

「世界の構造の基礎に横れる最も簡單なる諸形（型）は又神の心を現せる世界の理解のために兒童の心に基礎を置くなり、是等の簡單にして定かならざる諸形は結晶の基礎形なり」（フレイベルの第二恩物の固體）

「すべての機關及びすべての自然現象の模範は極りなき形の變化を有するにも拘らず而かもそれに特殊なる事物の普遍的特性なり、而して大さと重さ、調子と數とに關聯せる形と色を以てそれ自身を現すこの宇宙は、基礎的の形、基礎的

の色、基礎的の調子——所謂觀念の主型——として兒童の眼を通して兒童の心に最も初等の様式に於て印さるゝなり」

「定まれる明白なる強く現されたる概念は因つて起る進展の範圍に於て斯くの如く論理的に配列されたる觀念に従ふ。外的、物質的なる事物の誤らざる了解は智的關係に於ける公正なる了解の端緒なり」

「その知識のみがその活動と努力によつて外的物象の知覺と沈思より事物の中に逗留する思想及び概念に達する所の心の熟成を助長す、知識の梯子を漸次に昇ることによりてのみ兒童の心はその暗所より出で、自覺の明所に至る、兒童の内的存在を客觀的ならしむる所の原物アネクテアより他何物よりもこの自覺は明確に得らるゝ能はず、故に事物のエー、ビー、シーは言語のエー、ビー、シーに先立たざるべからず、而してその眞の基礎を言語（抽象）に與へざるべからず」

「獨立的に思考し、生得の尊き思想を巧みに現す人の尠きは現代に於て是等の基礎が屢々缺乏するが故なり、進展の內的階段と力の程度とに相當せず、兒童の心に加へられたる教育は兒童よりその事物に對する獨創的の見解を奪ひ且又己が上にその個性を極印すべき大なる力と才とを奪ふ、斯くて自然の眞より遠ざかりて戲畫に赴くなり」

フレーベルの判斷は斯く難解不明でありましたし又彼の獨得の話振りによる「觀念」は甚しく紛らまぎはしくありましたので、誰も彼の直覺の方法に深く立入つてゆかないかぎりはその特殊の意義を探し出すことは出来ませんでした。電光の一閃はよく暗路を照らし出すことがあります、而して彼が特に靈感によつて授けられた眞理は又丁度電光の如に直覺的に彼の聽講者の胸に運ばれました。

彼は屢々マイニンゲンとワイマールの公子達と交際しました、この公子達には私が彼と彼の説と

を紹介したのであります、而して私は屢々彼を訪れる時にこの公子達を連れてゆきました。

彼は眞に謙遜でありました、けれども彼が人としての尊嚴と説を持する人としての自己の價値とを感じてゐたといふことは彼の性格に於ける目立つた特性でありました。けれども彼は勿論彼の所謂神意を十分に認めてゐると思ひ込んでゐる所からそれを喜ぶのあまり、彼がその説を己一個の特有とは思つてゐないでたゞ神寵厚きその説の所有者の一人であると思つてゐることを知らぬ人々には彼は疑ひもなく傲岸であり尊大であるやうに見えた筈であります。けれども彼は決して凡庸者の持つやうな倨傲を持つてゐたのではありません。

それですから私がリーベンスタインの温泉に來た人々を彼の所へ連れて行きますと、頭髮を分けて流行外れの長外套を着て子供らしい單純な舉動をする村夫子そのまゝの彼はその外貌の凡庸であるがために侮蔑の眼を以て見られたり、つまらな

い者の如に思はれたりするのでした、而して私はその度毎に腹を立てたのであります。けれども彼は彼の説を輕んじ見縊るすべてのものに對しては一々注目しますが自分の身のまはりのことに關しては少しも氣に止めませんでした。

他の説に就て話をしてゐる時、煩瑣學者流なぞが彼の説を解することなくしてこれを誹謗したりすると彼は火の如になつて怒りました。

彼は自分で自分自身を理解する能力を持つてゐると信じてゐるのに何等の根據なき反對に出會ふと嘗つて私も目撃したことがあります。彼は自分の説の眞なることを擁護するために怒れる獅子の如くに呼號するのであります。